



《観照》の中で

《テツノネ》において藤原昌樹は、鉄という極めて物質的な素材を用いながら、形を固定された存在としてではなく、現れと消失のあいだに揺らぐ状態として扱っている。

線は空間へと解かれ、影や周囲の気配と重なりながら、見る位置や時間によってその輪郭を静かに変化させていく。

そこでは構造そのものが主張するのではなく、形の向こう側にある空間や呼吸が、視覚の中にゆっくりと立ち現れてくる。

《観照》において本作は、対象を見ることから、“現れ続ける関係そのもの”へと視覚を開いていく作品として存在している。

消える瞬間と現れる瞬間が、
形の向こうの景色と静かに重なっていく。

藤原昌樹通过铁这一极具物质性的媒材，
并未将“形”作为固定存在加以呈现，
而是使其持续处于显现与消失之间。

线条向空间中缓缓解开，
与影子、气息以及周围环境彼此交叠，
并随着观看位置与时间的变化，
持续改变着自身的轮廓。

作品所显现的，
并非结构本身的强调，
而是形体彼侧的空间与呼吸，
如何在观看之中慢慢浮现。

在《观照》中，
《テツノネ》所打开的，
并非对对象的凝视，
而是对于“持续生成中的关系本身”的感知。

消失的瞬间与显现的瞬间，
也正静静地与形体彼侧的景色相互重叠。

Artist | 藤原昌樹 ふじわら まさき 1968-



藤原昌樹 ふじわら まさき

1968 -

滋賀県大津市南比良在住。

鉄という重量と硬度を持つ素材を用いながら、
線・構造・空間の関係性を通して、
視覚の在り方そのものを問い続けている。

溶接や曲げ加工によって生まれる線は、
彫刻として空間を占有するのではなく、
周囲の光や影、空気の流れと重なりながら、
場の中で静かに変化し続ける。

1990年より個展・公募展多数出品。

2010年以降「CAF.Nびわこ展」継続参加。

2012年以降「BIWAKO ビエンナーレ 国際芸術祭」参加。

2017年、「京展」（京都市美術館）京展賞受賞。

現在、桃山学院大学人間教育学部教授。

藤原昌樹以铁这一兼具重量与硬度的材料为基础，
持续通过“线”“结构”与“空间”之间的关系，
探讨观看与感知本身的生成方式。

作品并不占有空间，
而是在光、影与气息之间，
持续发生变化。

観照 KANSHŌ

Heart Sutra as Living Axis

2026.5.26 — 5.31

kokoka 京都市国際交流会館

Reino-e Gallery Kyoto

www.reino-e.jp

info@reino-e.jp